

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	社会参加と生きがづくり
------	-------------

現状と課題

令和2年度に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では「閉じこもりリスク」に該当する方が全体の約3割となっております。

閉じこもりがちになると、運動機能低下の懸念や、人との交流が減ることで孤独感を覚え、心身に影響を及ぼすことが考えられます。

今後は、高齢者が孤立することなく地域の一員として暮らせるように、地域での見守りや声かけの意識を醸成することや個々の状況に応じた社会参加ができるよう、多様な社会参加の機会を提供することが求められます。

第8期における具体的な取組

- ・単位老人クラブへの支援、老人クラブ連合会運営補助
- ・地域サロンの活動支援
- ・高齢者の生きがづくり事業
- ・生活支援コーディネーターの配置
- ・ボランティア養成講座の支援、ボランティアの育成支援
- ・エリアサポーターポイント事業
- ・有償ボランティアの活動支援

目標（事業内容、指標等）

	R3年	R4年	R5年
高齢者の生きがい事業延べ参加者数	1200人	1300人	1300人
エリアサポーター養成講座受講者数	25人	30人	35人

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・生きがいと健康づくり事業に参加した延べ人数を計上
 - ・エリアサポーター養成講座の受講者数を計上。
(全ての回を受講し、エリアサポーターとして登録していただいた方のみ計上)

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和4年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがい事業の実施（5教室、パークゴルフ大会） 延べ参加者数 956人 ・エリアポーター養成講座の実施 令和4年10月31日（月）～12月1日（木）4回 受講者数（エリアサポーターに登録された方） 16人
自己評価結果【△】
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがい事業は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言やまん延防止対策重点地域の発令により、実施できない期間が約3、4ヶ月あった。 ・新型コロナウイルス感染症対策を施しながらエリアサポーター養成講座を開催し、16名がエリアサポーターへ登録。そのうち、市内企業から7名のサポーターが新たに誕生した。 ・生きがい事業とエリアサポーター養成講座の実施はできたが、目標人数に達成していないので△とする。
課題と対応策
<p>【評価時点での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度よりエリアサポーター養成講座を継続して開催し、令和4年度現在189名のエリアサポーターが登録しているが、高齢化に加え、転出や病気等で登録を解除されるサポーターもあり、地区活動への影響が危惧される。 <p>【課題に対する改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアサポーター養成講座の継続。 ・地域や企業のエリアサポーターの交流を図る。